休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹ケ月五十錢、壹枚二錢、郵税十錢
廣告料二行五十錢（指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　遊沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社

嚴正なる各位の御觀察に訴ふ

福島縣染物業組合長　草野七五三之助

御大禮博出品物決定問題に付ては聲明書に於て詳細發表したから、工業試驗場長が去る十五日發表した、民友新聞の記事には應酬の必要がないと思ふ特に私と場長と質問の際には幸にも出品者側の一人が會し、其翌日同人に會したるに同人も場長の態度並に論旨を聞き場長のようの事を云ふのだからなどゝ嘆息しつゝありしを見ても、別に民友新聞紙上の記事に反駁の要を認めないが然し左の五項に對しては各位の嚴正なる御批判を乞はんとするものであります、怠漫、無能、果して何れに該當すべきであるか。

私は本間場長が染物指導者として定見と抱負を有するや否やを疑ふものであります。して、試驗場長の要職にある人は須らく縣染物界の現勢を達觀し、その向上發展に導くやう常に努力をせねばならぬ人であるにも拘はらず今回の如き出品、六點が縣の方針なりとすれば縣下大勢より陳じ其の大部分は節絹、出品としても其内の幾分をして他方面の開拓餘地ある有望物に振當てる事が斯業發展上から見て縣商工技術者として當然取るべき任務であつたと信ずる。然るに場長はこの點に留意せざるはその失當も甚だしいものと言はざるを得ない此の如き無定見なる場長が去る十五日民友紙上に意見を吐いた左の五項に對して其責任何れにあるかを論じて各位の御批判を乞はんとするのであります。

場長の意見に依れば、
(一)實際組合員が組合の何物たるを理解せず
(二)組合長として大言壯語すも、組合長未だ曾て一錢の經費も納付せず
(三)組合の存立を明かにせん爲め或は事業をなせば後日必ず各員間に紛糾を伴ふ。
(四)組合存立の實更になし
(五)謝禮の沙汰止み云々。

以上は場長が組合長及組合會攻擊の言であるが少くとも冷靜にして熟慮すれば場長自身が抑も無能にして團体存立の上に指導者たる資格を缺くものである事が判るのであります。(一)と(三)以上理由を述ぶるに場長は既往縣組合組織前福島染業組合が染物研究會と二派に分立對抗し反目してゐるのを場長は之れを纏める能はず殊に場長の膝下なる信、達、福島方面にこの爭ひを目擊されるが之れを以て他人の責任とし組合長其他を怠漫となし無能呼ばりをするは要するに場長の實錄の足らざる結果に外ならぬ。場長の不親切にして誠意のない事を暴露したものである。

(二)以上に對して場長は、內部の事情を知らぬと言ふより外ない、會費は一ケ年一人八十錢として各支部より纏めて納付するわけで各支部にては之れを取纏めつゝある中支部に於ても常に此集金をなしつゝあり、若し支部より不納とすれば會員の會費は不納の形式であるが、併し組合長は或る會合の席上に會費に窮したといふ相談に接した故に私は纏まつたる金を組合に出金して居る。一ケ年會費八十錢とすれば私は事實に於て幾年分の出金して居るわけで場長の言分は問題にはならぬ不明の言である。

(四)以上述べたるが如く、指導者たる場長が團体指導の才なくその膝下をすら統制する能はず、傳ふる處によれば試驗場內部策謀者の爲に紛糾が生じてゐるとの事であるが場內は別として假令組合が紛糾してゐるとしてもそれは場長が無能で部下操縱統御る才なきを證明して餘りある事である。

昨秋郡山市に於て臨時縣組合役員會開催の際一營業者たる福島市富樫某が大なる失言をなし醜体を演じた後、富樫氏の失言を追窮せんとした私に對し公吏たる試驗場員の一員が極力其默止に努めた事があるがその兩者は今回歩行を共にし地方支部を馳け廻り何等か宣傳に努むる事は甚だ以て奇怪至極な行動で、組合間の不和龜裂の因は茲に胚胎するものと思ふのであります

(五)以上は仄聞するに、節絹競技會當時に其餘金を以て桑子氏外一名に謝禮せんとしたが桑子氏は右競技會の審査員なる故謝禮等を出さば事情を知らぬ他地方の人々は或は審査上の賄賂なりと誤解されては困るといふので、大部分の會員から反對されて撤回した由、之れが即ち謝禮問題の不平であらうと信ずる、此の正邪何れにあるかは明瞭な事であらう。十七日の民友新聞紙によれば、今回の出品問題其他の紛擾の過根は遠く組合會設立當時に起因するもので組合長は最初縣の商工課長を推載すべき意嚮であつたが、當業者の策謀により當業者が會長に當選した、め今日紛糾を見てもその經緯が想像さるゝであらう、當時場長推載の一部の策動者は即ち七八票の差で私が組合長となり場長が落選したのである、察するに民友紙上の掲載した組合幹部の總辭職を期待計劃したらしいと想像せらるゝの箇所がある。

場長は先に私と意見の變換の際其結局に於て「君とは何も云はん」と恰も馬丁、匹夫の如き態度を以て其挨拶に窮し問答を打切つたが民友紙には染色騷動の題下に意見を述べてあるを見て場長として少くとも抱負を有するなら何故に紳士的態度を以て、私を諒解せしめ得る迄說かなかつたか、然るに其挨拶に窮するのみならず其態度に於て事務所徹廢云々の暴言に於て場長の無價値無能たる事を暴露したのを見ても、場長本間氏は縣の商工技師として信賴し得ぬ事を斷言するものである。

明日の吉凶
舊曆八月十二日　新曆九月廿五日

▲一白　新規の事ははかしからず金談縁談後日
▲二黒　急がす焦らず牛の歩みの如くして得ある
▲三碧　一時の景氣は見へても跡の消へ易き日注意
▲四綠　協同奮勵する時は意外の吉日と成る盜み注意
▲五黄　遠くとも平坦の道を廻れ急直なればつまづきあり
▲六白　圓滿にして人を外さぬ樣なれば德望集まる日
▲七赤　遠き所より近に利益あり口舌爭ひは注意
▲八白　我意を通さんとすれば敵を求む人言を容れよ
▲九紫　あせり心を抑へ冷靜に倦まざれば大吉と成る

講談

幕末秘帖 狂怒乱心 (49)

渡邊默禪作　宮野歌春畫

「又た雜司が谷の一條はいかにも一應は憎むべき振舞とも想はれるが、本人の申開きを承はれば、理非曲直自ら分明、此の梅に毫末の責むべきことがござらん第一組の者の申す事が眞實であるとすれば多寡が町奴の爲に理不盡にも兩刀を挾んだものに向つて、いわれもなく狼藉に及びませう死して無手の場合でござるのに自ら進んで喧嘩を仕懸けるばかものもござるまいよし狼藉に及ばれたからと申してかりそめにも新徵組の端に列る武士でありながら腰の物を奪ひ取られ、その刀にて斬殺さるゝとは油斷か通り過ぎて大而拔けでござるわ。よもや左樣な譯でもござるまい、シテ見るゝ言葉までもなく、此の梅の申開が眞實矢張酒に酩酊して婦人を引捉へ武門の身に似しからぬ亂行に及んだ上、此の者に恥辱を加へたるが爭論の原因遂に嘩の決鬪をいたして見苦しい敗北を取つたもの、それに相違ないと此の土方は判斷いたす」

「うむ、な、な、成程の」

「さすれば梅を成敗すべきかどもないやうに存じられる、否」と一段聲を勵まして

「首を打つとは近藤氏近頃の御失策でござるぞッ？」

と叫んだ

勇は太い肩を搖かして

「うむ」とうめく

勇ゝへきえきするのを見て土方はそれを追究するやうに、猶も疊みかけた

「しかのみならず先刻から窃かに樣子を窺つてゐると

ころ、白刄頭にのぞむにあたつて泰然自若、腹を叩いて笑ひ居る、眼中敵もなく死もなく劍法の極意とする無念無想の三昧に入つてござるさて／＼心憎い奴、斯くまで工夫を積んで居るからにはむざと首を渡すべき筈がない、ハテ不思議と横から窺いた身の構は紛れもない氣當の中段霞、右の手にぎり／＼摑んだ手裏劍を正しく一刀齋家久の奧傳と睨み申したッ」

「えゝッ」

梅殿眼は光つた。悦恭ゝ腹帶を上へ手繰る

「む、手裏劍ぞか？フッフッフ」

勇はおどを搖かして覺へず苦笑した。

「さて見受る所此の勝負は五分と五分、兩虎共に鬪ふまでのことさ、あたら勇士を詰らない喧嘩沙汰に失ふのが、土方いかにも殘念に心得て双方から爲にお止めいたした、何と近藤兄、國家用の材を詰かしてた使になる御思召はござらんかな、さ」

說破一番、袴のそばを取つて立膝になつたなりに前に躪り寄つた

背後へ輪形に突立つて好奇の眼を輝しつゝ、その結果の如何になるべきかを宛ら富籤の札を振出の如くに多大の感興を以て注視してゐた十餘人の浪士等此時ひさしく息を呑殺した。

「むん、理屈ちやア」

勇は突如として白刄を大地へ投げた。かちりとツバか鳴る。

「や」一同の浪士は顏を見合せた

「こりや我輩が悪い詫ちやア、ハッハッハ」勇は空ぞうそぶいて高く笑つた

「土方、扱ひ頼む」

「では助命の儀を御承諾くださる御所存かな」

土方はその清らかな面に微笑を含んで、勇を仰看けると

「いかにも」とうなづいて

「土方献汲まう、こりや當座の引出物ぢや遣はし呉れ」

腰に殘つた鞘を拔いて土方へ渡してから、ぴたりと袖をはたいて悠々と緣へ上つた

廣告

中町南町
大和田醫院
電話一七〇番

小生儀先般病氣に罹り其の後靜養の必要を認め一時歸郷罷在候處爾來幸に經過良好全く舊に復し候に付此度歸平の上左記に事務所を定め從前の通り一般訴訟事務を取扱候間倍舊の御高顧を垂れられ度此段謹告仕候
昭和三年九月廿三日
平町字田町十九番地
（末廣の向側）
辯護士　漆畑元吉
電話一〇八番

食用鳩（カルノー ホワイトキング シルバーキング）
プリユウセキセイインコ　オカメインコ
アカボタンインコ　カルカヤインコ
ダルマインコ　小紋鳥
一紅鳥　錦花鳥
白文鳥　白十姉妹
脊ノコリ小斑
平町田町本通り
ベニヤ小鳥店

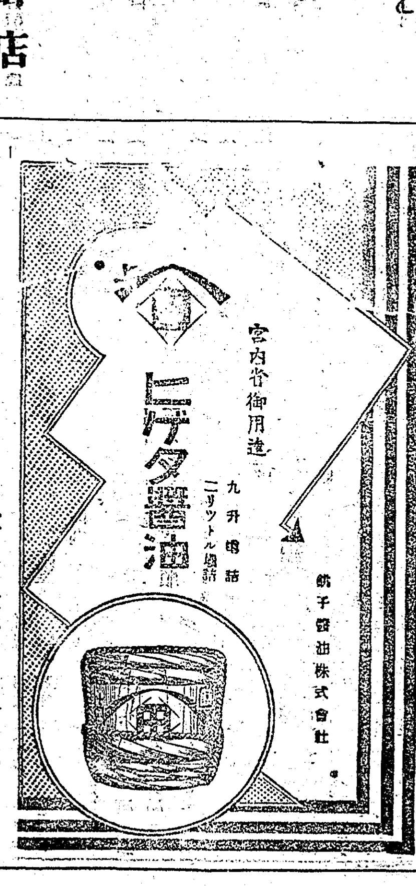
外科　外科一般　耳鼻科　花柳科
婦人科　産科　婦人科
内科
X光線科
赤心堂病院
平町田町（電四七五）

レコードハ
此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
TRADE MARK REGISTERED
肉聲のビクターレコード
販賣店　**會田時計店**
平町四丁目（電話三六三番）
店員募集

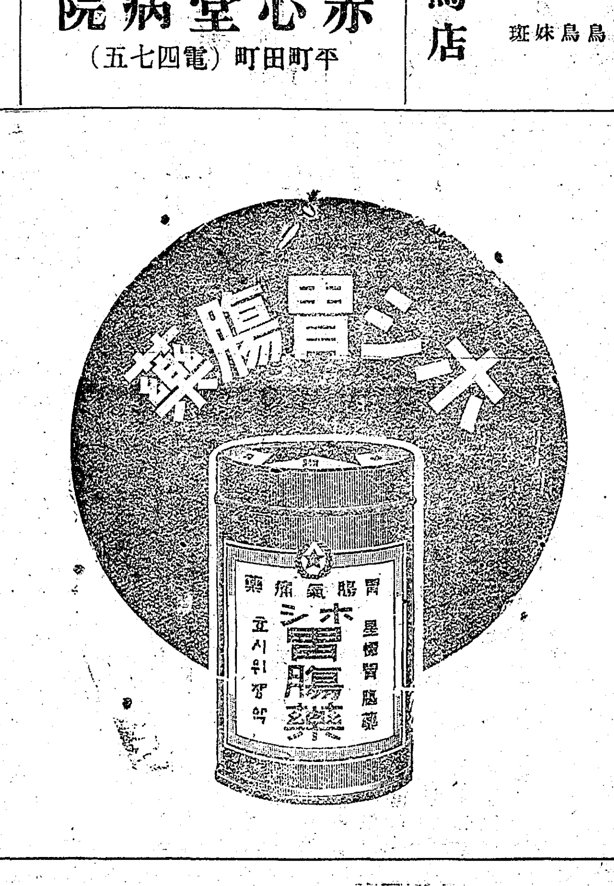
内科　小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平園五〇七番

平町田町通り
市原病院
電話一一四番

内科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼洪夫
電話一〇三番



特約店
廣瀬支店
平町田町　電話五四番



青麻山 中風靈藥
定價一週分九〇　二週分一、七〇　三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉效を奏す
……是非御試用を勸む……
代理店　平町五丁目角
山野邊藥局

常勝軍好間校遂に屠られ 榮冠は澤渡校へ
雄々しく奮鬪した磐崎第二軍
本社の少年庭球大會

秋のシーズンを彩る本社主催平倶樂部後援の第七回郡下少年庭球大會は昨廿三日午前九時恒例に依り前年の優勝校好間校が保持する大優勝旗を先頭に

出場戰士が晴れの入場式を爲すやクッキリと白く浮出た白線に埃一つないまでに掃き清められた大會コートを圍繞した各校應援團を始め無慮幾千の觀衆が雄々しくも勇ましき小戰士の入場を拍手をもつて迎へる、優勝旗保持の好間校から優勝旗の返還後本大會顧問木村磐女校長の開會の辭鈴木審判長大會ルールの說明を爲して開會を宣す時正に午前九時半、優勝候補と自他共に許す好間校軍と大會初參加の

新進磐崎軍の間に愈々大會の幕は切つて落されたが激戰再激戰各校應援團の應援此の大會ならでは全く見られない眞摯な小戰士の涙ぐましいまでの奮鬪は回を進むるに連れて愈々白熱化し殊に第三回戰に於ける全勝の好間校と突如彗星の如くに現はれ無人の境を行く如く席捲此れまた全勝の初陣澤渡校との對戰の如き第一回大會開始後最初にして最後か殆んど

息付く閑なきまでの一大激戰は無慮數千の觀衆を熱狂せしめて止まず堅城に籠つて五ケ年連勝の榮を得んと死守する好間軍も遂に王覇の夢破れて新進澤渡軍の爲めに屠られ大番狂せを演んずる等物凄いまでの緊張裡に終始し遂に期待された好間、平校の覇ならずし遂に

澤渡校が全勝し榮ある大優勝旗は澤渡校の爲めに奪ひ去られた、當日の戰跡は次の如くである

第一回戰（審判大坪君）
好間 二－〇 磐崎
深谷・大沼 三－一 上田・管
高萩・木田 三－〇 淡輪・坂田
赤井 二－〇 平
猪野・川隅 三－一 伊藤・佐藤
藥谷・吉田 三－一 佐藤・小野村
澤渡 二－一 小川
佐藤・中島 三－二 吉田・坂本
平山・水野 二－三 鈴木・大平
佐藤・中島 三－一 同

第二回戰（審判 根本君）
磐崎 二－一 平
上田・管 三－〇 佐藤・小野村
淡輪・坂田 〇－三 伊藤・佐藤
上田・管 三－〇 同
好間 二－〇 小川
深谷・大沼 三－〇 吉田・坂本
高萩・木田 三－〇 鈴木・大平
澤渡 二－一 赤井
佐藤・中島 三－〇 猪野・川隅
平山・水野 二－三 藥谷・吉田
佐藤・中島 三－〇 同

斯くて愈々第三回戰に入る好間校既にストレートで二勝すれば澤渡の佐藤中島此れまた戰友の敗戰にも更らに屈せず愈々妙技を奮つて二勝する優勝候補に數へられた平軍は案外もろくも破れて既に二敗三回戰からは必死の健闘をせんと意氣込めば赤井は一敗一勝三回戰後に全力を擧げんとして虎視眈々小川磐崎平は二戰二敗である

第三回戰
小川 二－一 平
吉田・坂本 一－三 佐藤・小野村
鈴木・大平 三－二 伊藤・佐藤
同 三－一 佐藤・小野村
澤渡 二－〇 好間
平山・水野 三－〇 深谷・大沼
佐藤・中島 三－二 高萩・木田

畢竟上の決勝戰とも見るべき此ゝ試合に第一、二回戰共全敗した平山、直立して叩き付けるやうに打つ猛球に深谷組は遂に潰滅されて萬場總立ちとなり此の大番狂せに呆然となる高萩組の老巧さも一球一打もゆるがせにせず理想的な型でコーナ探く打ち込む佐藤の爲めに大接戰の上で遂に破られる

赤井 二－一 磐崎
猪野・川隅 三－一 上田・管
藥谷・吉田 三－二 淡輪・坂田

第四回戰（審判 根本君）
澤渡 二－〇 平
佐藤・中島 三－〇 佐藤・小野村
平山・水野 三－二 伊藤・佐藤
赤井 二－一 好間
猪野・川隅 一－三 深谷・大沼
藥谷・吉田 三－〇 高萩・木田
同 三－三 深谷・大沼

第五回戰
小川 二－〇 磐崎
吉田・坂本 三－二 上田・管
鈴木・大平 三－〇 淡輪・坂田
澤渡 二－〇 磐崎
佐藤・中島 三－〇 上田・管
平山・水野 三－一 淡輪・坂田
赤井 二－一 小川
猪野・川隅 一－三 鈴木・大平
藥谷・吉田 三－〇 吉田・坂本
同 三－一 鈴木・大平

斯くて澤渡校全勝し赤井四勝一敗で二位好間三勝二敗小川二勝三敗磐崎一勝四敗平全敗ゝせん跡を以て閉會時に午後五時三十分木村大會顧問から澤渡校主將佐藤少年の手に優勝旗を授與次いで出場選士全部に賞品を授與し大會開始以來の盛況裡に閉會した尚大會に出場した磐崎軍は初陣しかも强敵平軍を屠つたが同校選手は何れも尋常科生であるだけ可憐な其の奮闘は大會中の花形であつた

石城聯合青年の体育大會
目覺しき各選手の戰跡

石城郡聯合青年團体育大會は二十三日午前九時半から平町磐中校庭に於て開催各村青年團選手は必勝の意氣物凄く參集出席競技部三百餘名、柔道部百五十名、庭に參列定刻唐土聯合青年團長並に小野氏等挨拶あつて審判長小池磐中教諭の注意あり競技に移り競技部は校庭に於てトラック百メートル第一豫選からフキールド走り巾跳決勝から開始され柔劍道部は道場に於てそれぞれ試合を開始した各選手の意氣は大いに揚がりコンディション頗るよくレコードも昨年に比し優秀な好成績であつた

フキールド

◇走巾跳決勝
一等西田武夫（湯本）五米四十二　二等金田源一　三等坂本知重

◇走高跳決勝
一等鈴木三郎（鹿島）一米突五十四　二等坂本知重（草野）　三等花澤輝一（平）

◇砲丸投
一等志賀重郎（好間）十米三十一　二等武田渡（玉川）十米二　三等松倉久四郎（磐崎）九米四十九

トラック

◇一萬米決勝
一着早田武夫（草野）十九分二十一秒五分ノ四　二着根本喜久（大野）　三着四木秀治（豊間）

◇百米決勝
一着西田武夫（湯本）十三秒　二着坂本新一郎（江名）　三着高本常彌（村原）

◇千五百米決勝
一着片寄周平（草野）四分四十七秒　（二着）泉美一（好間第一）　三着大樂喜一（大浦）

◇二百米決勝
一着坂本新一郎（江名）二十四秒五分の二　二着齋藤安之丞（小名濱）　三着高木常彌（藤原）　四着芳賀紋次郎（藤原）　五着箱崎繁榮（高久）

◇四百米決勝
一着齋藤安之丞（小名濱）一分一秒五分四　二着吉田源一（玉川）　三着久保木鐵雄（渡邊）

八百米リレー決勝
一着湯本チーム一分四十七秒五分三　二着高久チーム　三着磐崎チーム

柔道部
一等荒川善四郎（好間第二）二等山田銳太郎（泉）三等花澤行雄（平）　四等作山剛平（江名）　五等石塚福治（好間）

相撲
一等松田尋一（好間第一）
二等笹原直義（小名濱）
三等片寄源一（大浦）

劍道
一等藥谷久太郎（高久）
二等須藤一（飯野）　三等野田章（好間第一）　四等山田菅雄（好間第二）　五等大谷東雄（澤渡）

右の戰蹟を殘して午後三時十分閉戰したが二百メートル豫選に際し小名濱町青年團選手齋藤安之丞君は急激の疾走に腹痛を起したが遂に優勝、續いて四百メートル決勝に參加した際靴の踵を踏まで足部に約一寸の釘を踏んさしたがそのまで疾走して二着になつたが更に痛手をこらへて四百メートル決勝に參加し遂に最後の勝を占め物凄い奮闘振りを示した

當方の誠意を疑へば 片倉は御免蒙る
公募八千株を持ち寄り
危れる製絲工場

片倉磐城製絲株式會社の株式募集は去る十日を以て一ト先づ締切り目下株式の整理中であるが二十四日午後二時より平町役場に平町の發起人會を開き種々協議打合せをなしたが募株の成績を聞くと平町のみの割當株二千五百株に對し締切までの募集株は

約半數にして公募一萬株の總体に對し尙は八千株內外に止まり今後二千を追募するには相當の努力を要するのゝ様に觀測されてゐるが此の計劃の發表は今春三月頃にして何等募株に支障なき豫想なりしも其の後天候の關係上今年の稻作ゝ把發され更らに經濟界未曾有の動搖より遂ひに募株に豫期せざる不利益を來したのと更らに問題とされるのは石城信用販賣組合が片倉製絲に好感を持たず寧ろ積極的に防害的宣傳をなしたのも募株上一大支險を

招徠した原因で片倉製絲には石城郡民一致の希望も慫慂され地元に於て萬株さい公募せば殘り一萬株は片倉が背負つて平町に製絲工場を建設せんとせる意企なりしも若し公募一萬株に達せず更らに地方民の誠意を疑ひば或は此の問題も書餅に終るではないかと平町發展の爲め發起人となつて第一線に奮闘した伏見平町長は語つてゐた

第三校も着工と共に 第四の敷地買收
年度內に敷地の基礎工事
平町の計劃進捗

平町第三校問題は其の後計劃順調に進み二十二日の町會に於て敷地買收その他具体的豫算の決議を見たが當初豫算十五萬五千餘圓を十萬圓に削減し之れが內譯は買收費坪當り三圓にして四千二百一十四坪の金額一萬二千七百圓、此の埋立費も同じく坪三圓の一萬二千七百圓、道路新設費七千七百圓、建築費五萬圓の豫算にして本年中に敷地の買收並に埋立地均し等の基礎準備をなし明年春起工し昭和五年度の新學期より開校し豫定であるが校舍は尋常科六年まで各二學級つゝの十二學級木造の理想的校舍である、而して町會一致の意見は第三校竣工後引きつゝき第四小學を必要とすべきを見越し曾つて問題となつた南町裏に第四小學校敷地を買收してたくべきであるとの主張も有方であるが起債その他の關係上直ちに決行するの困難な事情もあるらしく些さか行惱むである

公告

石城郡好間村大字北好間
滯納者　小田炭礦株式會社
一、差押財産權
電話加入權　但シ平郵便局第百參拾貳番
右國稅滯納ニ付前記財産昭和三年十月五日午前十時平稅務署ニ於テ入札ヲ以テ公賣ニ付ス買受望ノ者ハ當署ニ就テ詳細承合ノ上入札ヲ爲スヘシ
昭和三年九月廿二日
平稅務署長

石城 社寺を探りて
赤井嶽と辨天（終）

△辨才天

辨才天は天光山蜜藏院と號し豐間村大字沼之內字代の下にあり、眞言宗智山派に屬し大野村專日寺の末寺なり、平城天皇の御宇德一大師の開基にして其の後南都の僧光藏律師を請じて住持となすと傳ふれども詳かならず、境內には辨天堂あり俗に沼之內の辨天といひ、丹碧彫刻また精緻を極む、前面の巨沼は即ち賢沼にして周圍六町十八間、廣さ東西二町三十間、南北四十四間、面積二町二反步あり一帶の丘巒之を圍み祠前に向つて其の一面を開く、水色深碧宛かも藍の如く其のさ幾尺なるを知らず、頗る幽境にして淸淑の氣に滿ち、燒れる山は松靑く、枕吹く風は當代の樂を奏でて神韻を疑はしむ、此の名古來魚八分に水二分の稱ありて鯉鮒、鰻等群衆し賽者の致る每に必ず水に浮遊し喝つその餌を待つ、一たび餌を投ずれば潑溂として爭ひ之れを喰ふ亦た奇觀なり、その大なるものは往々にして數尺に及ぶと雖も之を捕ふれば必ず冥罰を蒙るべしと傳ふるを以て絕えて釣網を入るゝ者なく、隨つて人を畏れざること宛も家畜の如し傳へ言ふ、辨天は元龍女にして常に此の沼の深底に潛み、時々荒川龍門寺の井中に往來すと、漁夫等の之を敬信すること極めて篤く每年初漁の松魚は必ず之れを獻じて以て其の豐漁を祈る例とせり、緣日は每年陰曆三月十五日にして賽者の多き近鄕稀れに見る所なり檀下百三十五戶、財産田一町一反、原野三反步、山林六町步を有す

△赤井嶽藥師

赤井村赤井嶽の中腹にあり水晶山と號し大同元年德一大師の開基にして桁行九間梁間七間、坪數三千九百十五坪、規模宏壯の寺院なり庫裡は本堂と軒を並べ桁行十七、間梁間十間餘二層南向にして曲り屋付なり、來の客變應等すべて此處にて取扱ふなり、近世まで眞言宗藥玉寺末なりしが、廿六代住僧法眼文政中堂宇を再建し今は寺格も昇進して嵯峨御所の御祈願所に仰せ付けらる、明治二十六年旭純榮の代に至り藥師寺末を脫し更に本山京都智積院の眞末となる、

△盥の虛空藏

神谷村大字盥にあり、福一虛空藏と稱し白土將監隆信の護身佛と傳へ、有名なる虛空藏にして、堂方四間三尺にして東面す、佛方二尺二寸、拜殿二間に五間、中央詣賽人を通ずる所一間二尺、緣日三月六日、六月十三日、相傳ふ像は佛工運慶の刻する所なりと、內藤氏の宇佐賀族之助殊に之を信仰し祈念する所あり、堂は初め西北隅牛山にありしを延寶二年五月三日更に地を相し此處に移す、堂前銀杏樹あり、技幹老聳、圍り八尺以上あり堂中赤穗の義士大石良雄の納むる處の扁額あり、中央に木劍を安す、相傳ふ書は良雄の眞蹟なりと、又內藤義概墓命を以て朝鮮の使を勸待するの時此の堂に祈願すと文より、其他カツラ大小二あり、近時堂宇頗る頽廢しければ諸方の信徒より寄附金を募り千餘圓を以て改築せり。

石城分場で 水稻統一
銀坊主は廢止

濱通りにおける生產米は本縣中通り並に會津方面に比し常に品質の低下を見てゐるのでこれが改良に就て石城郡農會を始め各農會とも種々硏究中であるが未だ完全ならず殊に濱通りは從來水稻品種類が餘りに多く一般農家は品種の選定に迷つてゐると云ふ事か生產米品質の低下を見る第一の原因となつてゐるこれが爲農事試驗では石城分場をして優良品種廿種の選擇せしめ本年度から石城分場に於て試驗を行つてゐるのでその結果濱通りの土壤に適する品種が決定されば直に一般農家に奨勵する筈であるから試驗完成後は濱通り水稻に一斯紀元を劃するものと見られる尙濱通りにおける稻熱病の多かつた理由は銀坊主種が多かつたことに依るので明年からはこの銀坊主種の作付は出來る限り廢止せしめる方針であると

磐城史料圖
版集成印刷成る

來るべき御大典及御成婚の二大盛儀に献ト冀望の爲、本年五月以來平町草野順平諸橋元三郎の諸氏にて協力編纂せる『磐城史料圖版集成』は豫ねて東京にて謹製中の處昨日を以て五百部出版を見るに至り夫々獻上の手續中なるが殘部に縣下の一般教育界、有志學者等に實費五圓にて頒布すべく、又內容は悉く貴重なる本郡鄕土史の參考圖凡そ百九拾葉を掲載す、申込所平町（電話八〇七番）鄕土社宛

豫審判事も出張し 脫走犯人取調べ
森刑事には申譯ないと
直治一切を自白

既報─列車逃走犯人山內直治は小名濱町を徘徊中平署に逮捕され本署に引致されたが直治は平然たる態度で係官を煙にまき、逃走後は殆んど眠らなかつたからゆつくり寢かせてくれと高鼾をかいてゐたが同人は平署管內二ケ所に於て破藏を働き又赤井村で金庫を竊取したる外計畫的に逃走して警察當局を散々手古摺らしてゐるので平署では嚴重な看守をなしてゐる、一方二十三日小區裁判所から中谷豫審判事が書記と共に同署に出張嚴重取調を行つたが、さすがの直治も護送の森刑事が負傷したことを聞き濟まないことをして申し譯がないと語つてゐた、而して其の後青田部長が主任となつて嚴重取調た結果遂に包み切れず去る十三日午前一時頃茨城縣久慈郡大瀨の海岸某別莊の表戶を押破りトランク二個に在中した現金七百圓を始め貴金屬約三百圓分を竊取したのを手始めに去る十日午前一時頃內鄉村小島字天の田沼田庄藏方の床下から忍入り手提金庫一個外本郡下のみで十一件竊盜を働らいたものであるが被害高約二千圓に達してゐる

吉田君出發

河北新報平支店より古河支局長に榮轉した吉田久君は廿二日午前八時五十五分平發にて赴任した

益子氏長逝

平町字田町梅の湯主人益子鶯之助氏は今廿四日午前八時半突然發病自宅で死亡した享年五十七年明日葬儀を營む

催促されて 機關手亂暴
器物毀棄で訴へらる

平町字古鍛冶町居住平機關庫機關助手小野三郎（二六）は古鍛冶町飲食店佐藤兵四郎方に同居中の飲食代を要求された前で兵四郎から催促されたのに憤慨去る十九日午後五時頃兵四郎方に暴れ込み同人の頭部其他全身に全治一週間の傷害を加へた揚句、皿井其の他器物を手當り次第に投付けて亂暴の限りを盡して引上げたので兵四郎から傷害器物毀棄で平署へ告訴された

船の番人が 海中に轉落
小名濱の騷ぎ

小名濱町字中島志賀熊吉二男孫四郎（一九）は去る十九日夜小名濱築港內に船番中居睡りをなした爲め誤つて海中に顚落心臟麻痺の爲め遂に溺死したが死体は同町青年團が海中搜査の結果廿一日午前六時頃岸壁附近に漂流した處を發見警部補檢視の上死体は家人に引渡した

磐新塔

淨土宗名越派の奧州總本山、專稱寺（夏井村）の役僧で木戶宗戒（假名）と云ふ當年二十六才の若いお僧さんが、志賀フク（假名）と云ふ當年六十五才の老媼を同寺門前に畜ひ、毎夜の多く庫裡奧で破戒の醜行をつゞけてゐた事が住職松岡白雄師に發見され袈裟を剝がれ、珠數を奪はれた宗戒僧、情人老媼の手をひいて東京方面に出立した
南無阿彌陀佛

平町田町
高久病院
電話五一三番